

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2002

10/1

NO.828 毎月1日発行

おだわらのオイシイ
秋



「交流型農業」を 楽しもう！

あわただしいくらしの中に、
農業の一端にふれる心のゆとりを持ってみませんか？
小田原市がすすめる「交流型農業」は
地域のこと、農業のことを一緒に考える事業です。
問農政課 ☎ 331494



自然と人とのふれあいを体験しましょう！

小田原市では、グリーン・ツーリズム（農村で楽しむゆとりある休暇）による地域の活性化を進めています。

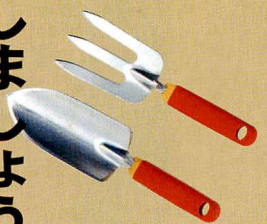
農村の自然に囲まれ、都市住民と地域住民とがふれあうことによって何かを感じ合い豊かな心を回復させることができると、考えています。これが、「交流型農業」です。

現在、市内の農業が抱える大きな問題に、農業者の高齢化による労働力不足と

遊休農地の増加があります。「交流型農業」では、都市住民が収穫などの農作業

を行うことによって不足している労働力を補ったり、遊休農地に景観作物を植えて憩いの場を提供し、そこで地域農産物の直売を行ったり、地域農業の活性化を促します。

今回は、「交流型農業」に取り組む、みかんの木とたまねぎのオーナー制度、そしてコスモス摘み取り体験を紹介します！



みかんの木のオーナー募集 自然の恵みを 思いっきり味わう

「小田原みかん」は、市の中心作物で、国内だけでなく、海外にも輸出しています。

みかんは、九州地方では、8月中旬から収穫して出荷となりますが、小田原では、早生みかんでも10月からの出荷になります。青島みかんの場合は、収穫してから貯蔵するので3月まで出荷できます。「小田原みかん」は全国の産地からの集荷がなくなる時期にも出荷できることから、重宝され名物になりました。

今回募集するみかんの木のオーナー制度は、1本の木になるみかんが丸ごとすべて自分のものになります。日常の栽培管理は、農家の方が丹精を込めて行います。みなさんは、みかん狩りを楽しみ、太

陽と大地の恵みが甘く凝縮されたおいしいみかんを味わうことができます。
品種と収穫時期

○極早生・早生みかん(10月中旬～11月中旬)
完熟させると一層味が良くなり、みかん狩りに多く利用されています。

○大津みかん(11月下旬～12月上旬)

甘味と酸味のバランスがよく、小田原みかんのエースです。

○青島みかん(11月下旬～12月下旬)

大津みかんと同様、甘味と酸味のバランスがよく、風味が濃厚で貯蔵性にすぐれます。

価格 木の大きさにより価格は異なりますが、収穫量約40kgで8,000円が目安です。

※締切は、場所や品種によって異なります。申込・問合せ

JAおだわら早川支店(早川活性化みかんの木オーナー会) ☎223966

JAおだわら国府津支店(国府津フレッシュみかんオーナー会) ☎474178

JAおだわら田島支店(キャッチング富士「田島みかんオーナー会」) ☎420254

たまねぎのオーナー募集 ふかふかの土に さわってみよう

下中地区は、たまねぎの名産地として知られています。約100戸の農家が、20haの畑で600tもの「しもなかつたまねぎ」を生産しています。「しもなかつたまねぎ」のおいしさの秘密は、恵まれた土壌と土づくりにあります。近くの畜産農家からの牛糞をふんだんに使った堆肥が、大きなたまねぎを实らせるのです。

この「しもなかつたまねぎ」のオーナー制度では、秋に苗を定植し、春には自分で収穫します。お子さんにもできる簡単な作業です。

苗の定植から収穫まではJAおだわら下中支店青年部がお手伝いします。採れたての「しもなかつたまねぎ」は甘くておいしい! ぜひご賞味ください。

場所 JAおだわら下中集出荷場付近の畑
期間 11月下旬～5月中旬



対象 300区画・先着順
料金 1区画(200玉収穫予定) 3,000円
申込 JAおだわら下中支店 ☎430312
締切 10月末までに

早川一夜城きらめきガーデン 「コスモス摘み取り体験」

早川の石垣山一夜城歴史公園前駐車場に隣接する「きらめきガーデン」は、5,000㎡の畑を早川活性化推進協議会(大津銀治郎会長)と市が整備を行い、春にはポピー・カスミソウなど季節の花々が、秋にはコスモスが咲き乱れ、皆さんの憩いの場となっています。

今年も、好評の「コスモス摘み取り体

験」を行います。当日は、フリーマーケットも開催しますので、ご家族おそろいでお越しください。
日時 10月13日(日)10時～15時 雨天決行
(フリーマーケットのみ雨天中止)
費用 無料(お一人様一束まで)
その他 ハサミを持参してください。

問農政課 ☎331494



小田原に伝わる木の文化

木製品フェア

2002

10月18日(金)～20日(日)

10時～17時

小田原アリーナ

主催 小田原・箱根木製品フェア2002
実行委員会

問 産業政策課 ☎ 33 1515

小田原地域の木製品の
「技術の向上」や
「販路の拡大」、
「情報発信」をテーマに、
楽しいイベントを開催します！



クラフトコンペ大賞作品
「座卓～海に浮かぶもの～」
藤井常雄さん作(東京都小平市在住)

主な催し

①全国木のクラフトコンペ表彰式
(18日(金)午前11時から)
大賞、金賞、銀賞など受賞者を表彰します。

②全国木のクラフトコンペ入選作品展示
500点を超える入選作品を期間中展示します。気に入った作品は買い求められます。

③名物木工屋さん50店の出店

小田原箱根地方の木工業者50社によるバーチャル商店街。実演、見学そして買い物ができます。



④木工玩具ふれあい広場
けん玉・ヨーヨーなどの昔懐かしい木のおもちゃで遊べます。

展示コーナー

行政機関の紹介コーナー

●県工芸技術センター試作開発品などの展示

●小田原市「おだわら木のアトリエ」モックの作品展示

各種イベント

①体験コーナー(随時開催)

専門家の指導を受けながら木製品の製作ができます(一部負担金あり)

●キーハンガー・印鑑立て・寄木のアク

セサリー・木製玩具・秘密箱など



②大抽選会(随時受付)

アンケート回答者に抽選で景品が当たります!(空くじなし5,000名)

★シャトルバス運行(無料)

小田原駅西口↑小田原アリーナ30分ごと

「作品数、質とも
レベルアップしています。
全国有数のコンペティションと
なるようにしたいですね」

フェア実行委員長
横田 仁さん



クラフトコンペでは、全国から1点でも多くの応募を集めることに苦心しました。その甲斐あって前回より応募作品数が増加し、作品の質も高くなっています。今回の大賞の受賞者は東京の方でしたので、これをバネに小田原の木製品業界も一層のレベルアップが図れるといいですね。将来は全国有数のコンペとして胸を張れるようにしていきたいと思っています。さまざまな木製品を販売する50の店舗も出店します。小田原に住んでいても、普段はなかなか数多くの木製品に一度に触れる機会は少ないと思いますので、ぜひすべての店をのぞいて見てください。小田原にこれだけ「木」に関わる人たちがいて、これだけ「木」に関わるものが集まることを、木製品フェアで感じてください。ご来場をお待ちしています。

開通迫る！

小田原駅 東西自由連絡通路

● 広域交流拠点整備課 ☎ 331653

平

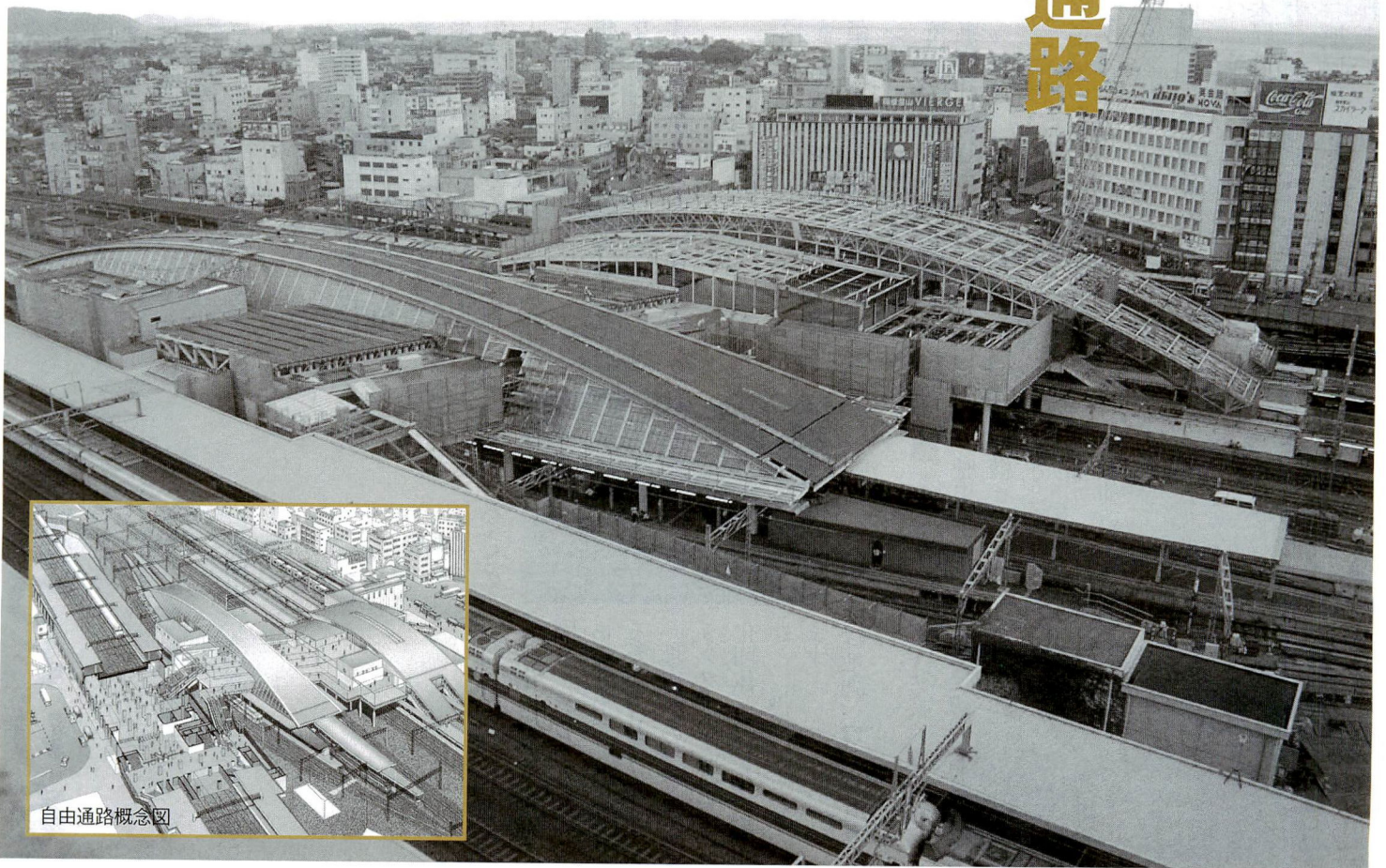
成11年度に着工した小田原駅東西自由連絡通路。完成を目指して急ピッチで工事が進められ、いよいよ来春、通路の一部が開通します。

通路の幅は16メートルで、これは8月に開通した栄町小八幡線の寿町区間の歩道も含めた幅と同じです。通路は線路をまたぐ形で作られ、東口側の地上との高低差は9.6メートルありますが、東西それぞれにエレベーターとエスカレーターが設置されますので、すべての方に優しく、利用しやすい駅となります。

小田原駅東西自由連絡通路は、小田原市民だけでなく、近隣の方や観光客など駅を利用するすべての人の長年の夢でした。駅の東西を一体的にとらえることで都市機能を高め、県西地域をはじめ、富士箱根伊豆交流圏の広域交流拠点としての期待も高まります。

今後は、開通を祝う記念事業なども予定しています。広報などでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

工事が進む自由通路と小田原駅舎



愛称募集！

小田原駅東西自由連絡通路に、21世紀の広域交流拠点の玄関口として、多くの人が行きかう場所にふさわしい、夢のある親しみやすい愛称を付けてください。

採用案を応募された方(複数の場合は抽選)を開通記念式典にご招待し、賞状と賞品を贈呈します。

募集期間 10月1日～11月30日(郵送の場合は消印有効、その他の場合は必着)

応募方法 愛称・住所・氏名・年齢・電話番号・愛称の説明を書いて、郵送、ファックス、Eメールで。

応募先 〒250-8555

小田原市広域交流拠点整備課

愛称募集係

FAX 331659

メールアドレス

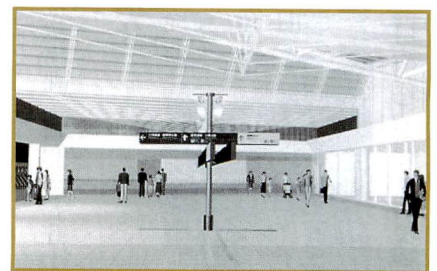
koiki@city.odawara.kanagawa.jp

※市内各施設に置いてある応募用紙でも応募できます。必要事項をご記入のうえ、窓口の職員にお渡しください。

発表 愛称は開通記念式典で発表するとともに、広報おだわら紙上でもお知らせします。

ホームページもご覧ください。

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/koiki/index.html>



自由通路内観イメージ図



地域をもっといきいきと！

構造改革特区提案書を提出しました

問 企画政策課 ☎ 33-1254

地域限定の規制緩和で経済の活性化を図ろうという国の構造改革特区構想に対して、小田原市は8月30日(金)に特区提案書を提出しました。

今後、国は基本方針とプログラムを決定していくことになっており、小田原市の提案が実現されることが望まれます。

提案書の内容とは

名称…「柑橘農業・柑橘園地対策特区」
みかん畑などの柑橘園地の緑は、小田原の優れた景色を構成する重要な要素ですが、その農業経営は厳しい状況にあり、耕作放棄地の増加もみられます。一方、都市と田園の人々の交流の場としての農地空間が最近注目されています。

そこで、柑橘農業の新たな振興策とともに、適切な土地利用転換がスムーズに進められるような対策を図ろうとするものです。

具体的事業とは

柑橘園地を①柑橘農地利用ゾーン②都市的土地利用ゾーン③自然(里山)的土地利用ゾーンの3つに分け、それぞれ土地利用転換を適切かつスムーズに進めるための想定事業を提案しました。

構造改革特区構想ってなあに？

「個性ある地域の発展」「知恵と工夫の競争による活性化」という観点から、地域の自発性を最大限に尊重する形で進め、特定地域における構造改革の成功例を示すことで全国的な規制改革へと波及させ、日本経済の活性化を実現するための構想です。こうした地域限定の構造改革により、地域の活性化につながることを期待されます。

まちづくりを進める

4つの基金

問 市民交流課 ☎ 33-1706

ふるさとみどり基金



緑化の普及と推進を図り、緑豊かな潤いのあるまちづくりを進めるための基金です。歩道へのフラワープランターの設置や、緑化団体への草花の配布などに役立てられています。

問 公園緑地課 ☎ 33-1583

ふるさと文化基金

歴史や文化を受け継ぎながら、ふるさとを愛する心を育て、新しい文化を創造するための基金です。

市民劇場の公演や、音楽を通じた青少年の文化交流などに役立てられています。

問 市民交流課 ☎ 33-1706



社会福祉基金



思いやりの心で助け合う、地域の社会福祉活動を進めるための基金です。一人暮らしのお年寄りの訪問や、ボランティアの育成などに役立てられています。

問 福祉総務課 ☎ 33-1861

防災対策基金

災害に強い安全なまちづくりと、大規模な災害が発生した場合の復旧事業の経費に充てるための基金です。

自主防災組織(自治会)が行う防災資機材整備への助成や防災リーダーの育成などに役立てられています。

問 防災対策課 ☎ 33-1855



10月19日(土)・20日(日)

第45回 尊徳祭

郷土の偉人
二宮尊徳に学ぶ



尊徳祭は、郷土の偉人二宮尊徳の遺徳を偲び、その偉業を顕彰するため、昭和30年10月20日に二宮尊徳没後100年事業として第1回が開かれました。45回目となる今回も、尊徳記念館を利用されている各種団体や地元の方々によって多くの催しが企画されています。二宮尊徳の数々の偉業や教えを、全国に知っていただくよう、尊徳祭開催中は展示室を無料開放します。

また、「尊徳講演

会」では、映画監督で小田原市史編さん委員、おだわらシルバード大学歴史観光学科講師でもある小笠原清さんを講師としてお招きし、「報徳」の可能性を語っていただきます。

尊徳記念館に集合して、二宮尊徳の教えを学びましょう！



小田原駅東口の二宮金次郎像

問 生涯学習課 ☎ 331712

● 10月19日(土) 12時25分～16時

★ロビーコンサート ★開会式 ★尊徳講演会 ★相模人形芝居 下中座の皆さん(国指定重要無形民俗文化財)

★尊徳講演会 13時10分～14時40分 (おだわら市民大学報徳塾公開講座)

演題『報徳のひろがり』と未来への期待』二宮尊徳の足跡と報徳のひろがりを映像によって探訪し、その仕法が現代社会にどのように活用されているのか、北京大学で最近行われた「二宮尊徳思想国際シンポジウム」の様子をまじえその可能性を探ります。

講師 映画監督・小田原市史編さん委員 小笠原 清さん

定員 無料・先着200人まで

● 10月20日(日) 10時～16時

★和太鼓演奏 ★芸芸会 ★報徳市(農産物直売など) ★茶会 ★当日参加コーナー(当日先着順) ★手作りおもちゃコーナー ○竹細工(小学4年生以上・60人まで)、紙細工(小学1年生以上・60人まで) ★「二宮金次郎」のアニメーションビデオ上映(13時～15時) ★墓前祭 東栢山善栄寺(10時～11時)

● 10月19日(土)・20日(日)とも開催

★水墨画展示 ★書道展示 ★二宮尊徳学習事業成果展示

● 尊徳祭関連事業

○ 尊徳祭俳句大会 10月27日(日)

席題「秋季雑詠2句」

受付10時30分 投句締切12時

問 大野 ☎ 362319

○ 報徳マラソン 11月3日(日)

受付7時30分 スタート9時

問 一寸木 ☎ 373730

※ 10月の尊徳学習相談は尊徳祭のためお休みになります。

お城でゲーム&ウォーク



～みんなで楽しく～

小田原の歴史再発見！

問 青少年課 ☎ 331723

市青少年指導員協議会では、小田原の歴史に触れながら、親子や友だち同士がふれあいを深めようというイベント「お城でゲーム&ウォーク」を行います。

城址公園をウォークラリーで歩きながら、いろいろな発見をしてみましよう。チェックポイントでは、工夫を凝らした楽しいゲームもたくさん用意しています！

日時 10月27日(日) 8時45分～12時

場所 城址公園

対象 小学生とその家族、または小学生同士のグループなど、小学生を含んだグループ30組(各チーム2人から4人程度)先着順

※低学年のお子さんは必ず保護者同伴で。

参加費 1チーム500円(保険料ほか)

申込 電話で青少年課へ

教育、私はこう思う！

静かなる教育論議にぞくぞくご意見。

スポーツ、芸術、食欲…。秋はいろいろと形容されますが、実りの秋ともいいます。皆さんが教育について考えることは、未来の小田原において大きな「実り」となるのではないのでしょうか。

☎教育総務課 ☎33-1671



教育、私はこう思う！
vol.11

テーマ「文化と教育」

いろいろな意見を聞いて皆さんが感じたり話したりすることも、教育論議です。

子どもとお祭りについて

お祭りの日に、子どもの姿が年々少なくなっているように思います。少子化の影響なのでしょうが、お祭りに参加しない子どもも増えているのでは。祭りは日本の文化です。家族で参加できる環境が必要だと思います。

地域文化の担い手について

昔のものがすべて肯定される訳ではありませんが、多くの民話や伝統行事は現代の我々に新たな発見を与えてくれます。伝統を守るとは次世代の子どもたちの糧ともなり、地域への愛情も増すものと思われまふ。地域の大人

と子どもが力を合わせて地域の文化を守っていく場を多く持ちたいものです。

わがまち探検隊について

5～6人の子どもたちでわがまち再発見を！「1000年都市おだわら」といわれるように「わがまち」は歴史の宝庫です。子どもの視点で古き物を探し、これをテーマにして先輩達から話を聞いてはどうでしょう。「歩いて、探して、聞いてみる」。きっと歴史の再発見に繋がると思います。

受け継がれる地域文化について

家庭・学校・地域が各々役割を果た

して、子どもは日々成長し、地域社会の一員として行事に参加しています。地域文化を伝承していくことは大人の役目ではないのでしょうか。

日本の伝統的な遊びについて

今の子どもたちには実体験が不足していると思います。たとえば竹とんぼも今はプラスチックできていて、先がちょっと折れてしまうと捨ててしまします。「昔の子どもたちは自分でよく飛ぶように考えて削ったんだよ」と言うのが驚いていました。これからもっと、自分で工夫できる遊びを体験させてあげたいと思います。

いかがでしょうか。

誰でも気軽に、さまざまな文化にふれる機会を持つことができます。そのような風土を地域全体で育んでいきたいものですね。皆さんもこのコーナーを読んだら、その思いを忘れないうちに、近くの人に話してみましょう。それが教育論議への第一歩となるのです。

支所、連絡所、小・中学校などに置いてある「意見カード」でのご意見もお待ちしています。小田原市ホームページの「小田原市教育ネットワーク・静かなる教育論議投稿フォーム」でも受け付けています。

投稿フォームアドレス

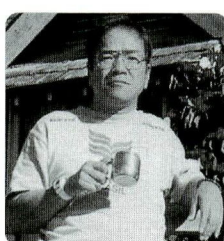
<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/silent/>



ユーカリの巨木



牛の出産



平塚さん(タラマラにて)

オーストラリアに1か月から3か月の間滞在し、農場体験や日常生活をとおして、心身ともにリフレッシュする「オーストラリア・リフレッシュステイ事業」。8月に帰国した平塚幹男さん(久野)からレポートが届きました。

☎市民交流課 ☎33-1707

オーストラリア・リフレッシュステイ 現地通信

vol.1

壮大な大地に宇宙の広さを感じながら
リフレッシュ！

冬のオーストラリアといっても昼間の日差しは強く、Tシャツで十分な気候です。

牧場での仕事は、早朝の牧場見回りと、牛の出産確認でした。牧場の牛は自然分娩で野原に産み落とします。見ている間に子牛は立ち上がり、大地を踏みまふ。そんな自然の営みを見ていると、なんだかとても心が和みます。

牧場の周りは、国立公園であるブルーマウンテンに囲まれています。夜が明けると同時に、大きな大地は青みを帯びながら姿を現します。滞在中はリュックを背負って、幾つかのウォーキングコースを楽しみました。

絶壁を上からのぞいて大地の広がりを感じ、断崖から流れ落ちる大滝を横から眺めました。森の中に入ると大小の峡谷があり、そこには原始の姿を残し、ユーカリの巨木が見事に立ち並んでいます。それには、泣きたいくらいに感動しました(実際、涙が出ました)。

大自然の美しさ、自然のパワー、宇宙のパワーを強く感じさせる力が伝わってくるようでした。大げさですが、宇宙と一体化した錯覚に陥った瞬間でした。この事業に参加して、本当にリフレッシュし、小田原に帰ってきました。

『二一ハオ! 中国観光客』

文 小澤良明

去る八月二十八日から三十日まで、西さがみ連邦共和国（小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町）では中国の観光事情調査と誘客宣伝の為に北京を訪れた。二泊三日の強行軍で、一行は代表の私、副代表として山口箱根町長、そして横井湯河原町助役ほか総勢七名である。連邦共和国の今年度の主要事業の一つに観光資源の一体的活用による国際観光振興とあるが、急成長が予測される中国人観光市場に於ける有望な訪日客層や旅行業界などの現状を調査し、中国人観光客を積極的に共和国に誘致する為のプロモーション事業を実施しようというものである。



国家旅遊局を訪問

調査の結果、中国国家旅遊局指定のいわば公認旅行会社は中国全土で六十六社、うち日本向け団体観光旅行を取り扱うことができるのは、北京市十社、上海市五社、広東省六社の計二十一社のみと判明した。短い日程の中なので私達は北京市に的を絞ることにした。単なる観光の為の訪中と違って政治的にもいろいろ難しい課題のある中国政府や北京市政府の了解と協力が必須の事業だけに、事務局の『西さがみ連邦共和国推進室』職員の前準備の苦労は涙ぐましいほどであった。幸いにも中

国政府と特別なコネクションを持つ衆議院議員・河野洋平先生の格別のご配慮により、中日友好協会の全面的なバックアップも得られ、訪中は結果的には大成功であった。

二十八日夕刻、二十年ぶり三度目の北京は驚くほど全てが都市化され、二



観光プロモーション

〇〇八年オリンピックの準備もあつてか、至る所喧噪と活気にあふれていた。その夜早速、中日友好協会主催の歓迎宴である。王效賢副会長から、折りしも今年が日中国交正常化三十周年という記念すべき年で、それだけに日本の地方自治体で初の積極的な試みが成功裏に進展するよう全力を挙げて支援する、との力強いごあいさつをいただいた。翌二十九日、いよ／＼本番の日。早朝から、国家旅遊局、北京市人民政府

外事弁公室、北京市旅遊局、中日友好協会を順次表敬訪問し、各要人との実り多い会談がもたれた。それぞれの席で異口同音に言及されたのは、訪日観光旅行が解禁となったのは僅か二年前でまだ始まったばかりということ、特に日本への旅行は北京市、上海市、広東省の三地区の住民のみとする制限や、日本ツアーが高額であり、ビザの取得にも時間がかかり過ぎる等、主として私共日本側の制約を早く改善して欲しいとの要請で、これには少しガッカリした。

午後六時からの観光プロモーションは、国家旅遊局の胡副局長を主賓とし、北京市旅遊局や中日友協の幹部、日本観光振興会北京事務所首席、そして肝心の国家旅遊局指定旅行社六社十一人の出席という望外の盛大な規模で開催された。西さがみ一市三町の観光ビデオ放映の後、意見交換に移った。友好的かつ闊達な雰囲気は、今回の訪中の成果が集約されたような有意義な一刻であった。

中日友好のシンボルは中国は万里の長城、日本は富士山、やはり東京、デイズニールランド、富士山そして電気製品が魅力、温泉は宣伝不足で中国人には未だその良さが分らない面がある、日本の城は興味深い、いかにコストを下げ魅力を紹介するかだ、等々の具体的意見と共に、西さがみへ行くようPRしたい、各旅行社を直接訪れて説明したら、上海市民は日本への関心が特に高い、次は上海市へ行くべき、中国語のホームページを早速作

れ、北京市観光文化祭等にも参加しマスコミにもアピールしたら、中国では民間だけでなく国や北京市即ち行政ともタイアップしなければダメ、等貴重な提案をいただいた。

箱根・小田原に早い時期に視察団を連れて寄りたい、という嬉しい話しまであつて、振り返ってみるとまさに観光最前線で大奮闘、充実感一杯の訪中であつた。今、『二一ハオ』の国へ、西さがみ連邦共和国の観光プロモーション事業が一步踏み出したのである。

小田原 彩時記

「手話ソング」を小中学生が披露!



市民交流課 33-1706

市役所の2階ロビーで毎月開催しているミニコンサートは、お昼のひととき気軽に音楽が楽しめる小さな演奏会です。

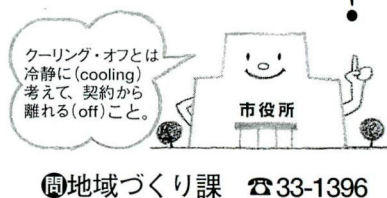
8月28日(水)には、市内の小中学生が、手話を通して福祉の心の育成と聴覚障害者の方たちと手話で話しための技術向上を目的に参加している「社協土曜手話クラブ」の皆さんが出演。「めだかの学校」や「赤い鳥小鳥」などの曲を、ピアノと歌に合わせて手話で披露しました。

クーリング・オフ制度を知っていますか？

10月12日(土)～10月18日(金)は「かながわ消費者週間」です

被害にあってしまったら…

もしも不要な契約をしてしまい「しまった!」と思ったら、まずクーリング・オフ制度が適用されるかどうかを考えてみましょう。クーリング・オフ制度とは、訪問販売や電話勧誘販売などの特定の取引について、契約(申込み)後でも法律で決められた期間内に手紙やはがきで申込みの撤回・解除の意思を知らせると、無条件で申込みの撤回・契約の解除ができる制度です。すでに商品を受け取っている場合の返品費用は販売業者が負担し、すでに支払っている頭金や申込金は全額返還されます。損害賠償金や違約金を請求されても支払う必要はありません。



問地域づくり課 ☎33-1396

◆小田原市市民相談室

☎331383

(消費生活相談は第1～4金曜日の9時～12時、13時～16時)

◆神奈川県小田原消費生活センター

☎226321

(月曜日～金曜日9時30分～12時、13時～16時)

消費生活に関するトラブルが生じた場合は、市役所または県小田原消費生活センターにお気軽にご相談ください。

おだわらの少年スポーツクラブが全国レベルで大活躍!

ドッジボールチーム

「足柄ハリケーン」
全国大会ベスト8

小田原市で唯一のドッジボールチーム「足柄ハリケーン」は、足柄小学校の児童を中心に3年生から6年生までの男女で構成されている総勢17人のチームです。7月28日(日)に平塚市総合公園体育館で開かれた「第12回全日本ドッジボール選手権神奈川県大会」で見事優勝。県下52チームの頂点に立ちました。

8月18日(日)には千葉県の幕張メッセで行われた全国大会に出場し、都道府県48チームの強豪を相手に見事ベスト8入りしました。



ただいま一緒に活動する仲間を募集中です。

軟式野球チーム

「鴨宮コンドルズ」
関東大会出場

鴨宮コンドルズは、鴨宮運動広場を拠点に活動している軟式野球チーム。市内6小学校から総勢33人の児童が参加しています。

この夏の神奈川県学童軟式野球大会で念願の初優勝を飾り、関東大会へ出場しました。

8月27日(火)に厚木市内で開かれた関東大会では、山梨県のチームに惜しくも敗れ、2回戦出場はなりませんでしたが、みんな最後まで一生懸命がんばりました。



小学1年生から5年生までの部員を募集しています。

劇団こゆるぎ座 第50回記念公演

第50回記念公演

小田原義民伝 万治三年一揆



■開演
10月26日 6:00pm
10月27日 1:00pm

●第49回小田原市民文化祭
●第53回小田原市民演劇祭
●神奈川県演劇フェスティバル参加
◆後援／小田原市・小田原市教育委員会
小田原市文化連盟
小田原市民会館大ホール

地域とともに歩んできた
劇団こゆるぎ座

終戦間もない小田原で、芝居好きだった二人の若者が立ち上げた劇団「こゆるぎ座」。
娯楽もなく食糧不足で精一杯という時代に「小田原で芝居を」と頑張ってきた地域の劇団が、第50回の記念公演という偉業を成し遂げようとしています。
現在、劇団の代表を務めるのは、市内本町にお住まいの関口秀夫さん。今年で57周年を迎え、神奈川県で一番古いアマチュア劇団は、ますます元気です。

劇団こゆるぎ座 第50回記念公演
小田原義民伝 万治三年一揆

日時 10月26日① 18:00開演
27日② 13:00開演

場所 市民会館大ホール

入場料 1,000円

前売り 平井書店、八小堂書店、伊勢治書店、井上楽器などで

問劇団事務局・関口 ☎22-2988

時代は徳川三代家光。小田原藩は稲葉氏。幕府命による、小田原城ならびに城郭の改修普請、さらに城下、町家の区画整備などによる莫大な費用捻出に困窮していた。幕命として、当然のように農民達に課せられた過酷な年貢、さらに麦への課税。
上郡関本村名主・下田隼人。その才覚に併せて農民達の信望のもとに、村人たちの苦境、人命を救うため、藩への反目の先導を切る。やがて気運は高まり直訴へとなる。俗に言われる「小田原一揆」である。
後に表祖は撤回されるが主宰に立った隼人はご定法により、一人処刑の身となる。万治三年（一六六〇年）の出来事であった。
この小田原に残った歴史上の史実を、正義とロマンの诗情豊かにうたいあげた魂の力作。
創立から57年。劇団こゆるぎ座が50回節目の記念に全力で取り組む期待と注目の異色大作。

私設保育施設には、
届出が必要です！

問児童福祉課 ☎331455



児童福祉法改正に伴い、10月1日から私設保育施設（認可外保育施設）を開設予定もしくは、すでに設置されている方についても、県知事あてに事業開始の届出が必要になりました。
また、今後、県知事への定期報告、保育サービス概要の施設内掲示など、情報提供を行うことも新たに定められました。
なお、幼児教育を目的とする施設でも届出が必要な場合などがありますので、詳しくはお問い合わせください。

身近にある 小田原の史跡

史跡を訪ね、シリーズで紹介します。



船津家の長屋門

源氏を支えた 小田原の名族・中村氏を訪ねて

今回訪ねた橘地区周辺は中村荘と呼ばれた荘園があったところで、ここを本拠とする中村氏は有力武士団でした。橘地区には中村氏ゆかりの史跡がたくさんあります。今回は、久野在住の遠藤利康さんと星野勝之さんが訪ねました。

問 文化財保護課 33 17 17

まずは中村氏の本拠地、伝中村氏居館跡へ。中村氏は桓武平氏を称する一族で、古くから源氏に従い活躍しました。源頼朝が弟の義経討伐のために京都に赴く際には、ここに一泊して、相模国中の武士を結集して西に向かいました。

「こんな所に源頼朝が来たんですか…」兵どもが夢のあと…

今は、苔むした五輪塔だけがいにしえを偲ばせ、しばし中村氏の栄華に想いを馳せる2人。

続いては小船森遺跡。この発掘調査では居館跡や4, 838枚もの銅銭が見つかりました。中村氏が領主だった時期と重なることから、同氏との関係も考えられています。

次に訪れた船津家の長屋門は

入母屋造り・茅葺きの門。200年近くが経ちますが、原形が良く保たれた小田原地方の名家を代表する門で、昭和63年には市の指定文化財になっています。実は、この船津家も中村氏の子孫なのです。

最後に、桜の馬場を通って六本松峠に向かいました。桜の馬場は、沼代の鎮守王子神社に奉納する競馬の馬場があったところ。今は桜の名所として有名



伝中村氏居館付近の五輪塔

ですが、この競馬も武芸奨励のために中村氏が始めたものだといわれています。

六本松峠は、中村氏の館を出発した源頼朝が通った峠。ここを越えて京都に向かった頼朝は、全国平定を目前に、ここから足柄平野の光景を眺めたはず

初めて訪ねた橘地区にはたくさんさんの遺跡があり、この地が古くから発展していた事を知りました。中村氏の居館跡の可能性がある小船森遺跡からは備蓄銭4, 838枚が出土したとも聞きました。橘地区とは、昔からの文化が地中に埋まり、出土する遺品は過去の事実を訴えようとしている。そんな土地柄なのだと感じました。また、船津家の長屋門は技術的にも優れた門で、保存状態も良く感じました。「晝寝時 陰をかりたい長屋門 涼風はだに茅葺きの屋根」末永く保存したいものです。

です。

みなさんの周りにも歴史に名を刻んだ人々の足跡が残されています。そんな史跡を気軽に訪ねられるのが、小田原の魅力の一つ。これからの季節、ハイキングがてら出かけてみてはいかがでしょうか？



遠藤さん(左)、星野さん(右)

「粗にして野だが 卑ではない」 石田禮助の生涯

城山三郎

文芸春秋

総裁に就任してまもなく、嫁や孫を連れ、石田が畠仕事のままの汚ない恰好で散歩に出ると、近くの御殿場線で作業員が保線工事をしていた。石田は立ちどまつて、しばらく眺めていてから声をかけた。
「ごころうだね。きみたちが居るから、安全なんだよ」
作業員はとり合わず、むしろ石田を叱った。
「じいさん、じいさん、列車が来るから危ないよ」

(略)

国府津の家は、駅からだらだら坂を十五分あまり上ったところで、低い山を背にし、眼前には帯状の平地を隔てて箱根連山、さらにその上に大きく富士を望む景勝の地である。

(略)

石田禮助の朝は早い。五時前に起き、雨戸を繰る。洗面をすませると、つゆのために洗面の湯を用意し、冬はストゥーブに火をつける。晴れてきいれれば、裏山へ上り、富士や箱根の山々を眺めながら、深呼吸。

(略)

朝食が終わると、まもなく家を出る。
駅まで下り坂を歩いて、七時少し過ぎの列車に乗る。

39年前の10月1日、東海道新幹線が開通しました。東京駅で行われた「ひかり1号列車出発式」でテープカットを行ったのは、国府津に住んでいた石田国鉄総裁でした。

石田禮助(1886-1978)

は、第五代国鉄総裁を昭和38年から44年まで6年間務めました。

西伊豆の松崎町に生まれた石田は、東京の中学に進学し、東京高商(現一橋大)を卒業後三井物産に就職します。入社した年の大連赴任、その後シアトルやニューヨークなど、35年間の在職中のほとんどを海外で過ごしました。

国鉄との関わりは、総裁就任の7年前に同じく国府津に住んでいた十河信二第四代国鉄総裁から頼まれて、国鉄監査委員長を務めたことに始まります。

十河総裁が、三河島事故とその後の新幹線予算問題で辞職に追い込まれた後、時の池田勇人首相が財界からの登用を熱望しましたが応える財界人はありませんでした。ただひとり石田が、監査委員長として国鉄の内情に詳しく、また愛着も感じていたからか、むしろ喜んで就任したといわれています。

就任記者会見では、77歳という



はさらに、改札で、乗客に切符を持たせたまま鉄入れの「持たせ切り」を止めさせたり、「二等車」「三等車」の呼称を「グリーン車」「普通車」に変えさせました。

思ったことをそのまま言う石田の発言は、国会でもまた労使間でも様々な問題を引き起こしますが、話し合ううちにやがて理解者は増えていきました。

石田が亡くなってから9年後、国鉄はJR各社に分割されますが、反対論を押さえ積極的に民営化を推進したのは、石田時代の若手課長クラスだったといわれています。

石田禮助の生涯を描いた本作品には、住まいであった国府津の様子が登場します。

このコーナーでは、映画・絵画・写真・小説・詩などの作品に登場する小田原を紹介しています。小田原が扱われている作品をここに載せたら、市広報広聴室までお知らせください。☎331261

輝く小田原人

キュートでパワフルな
パワーリフティング日本記録保持者

原 あずさ さん

35歳(小田原在住)



パワーリフティングというスポーツをご存知だろうか。ベンチプレス、スクワット、デッドリフトという三種目の合計の重さを競うものである。原あずさんは、このシンプルがゆえに奥の深い競技で日本記録を保持し、世界レベルの大会でも数多くの入賞を果たしている。



ベンチプレスの練習風景

待ち合わせのジムで「こんにちは」と出迎えてくれた原さんは、小柄で引き締まった身体に大きな腫が印象的。一見、パワーリフティングの、それも世界レベルの競技者にはとても見えないチャーミングな女性だ。

「それでも小学校高学年まではほとんど見た目は男の子」というほど幼い頃から活発で、スキーは3歳から、バスケットボールは中学生からそれぞれ20代まで続けていた。

パワーリフティングとの出会いは「大学を卒業してから太ってきたので、ダイエットのためにウェイトトレーニングを始めたのがきっかけなんです」。ここでもメキメキと頭角を現し、4年後には当時の日本記録を塗り替えてしまった。「その後も自分で自分の記録を塗り替えたりして、今はスクワット142.5kgが女

子44kg級の日本記録になっています」。

現在は小田原から勤務先の東京まで毎日往復して、退社後も週に2日はご主人が経営する秦野市内のジムで汗を流し、遅い日は帰宅が深夜12時というハードな日々を送っているが、「がんばればがんばっただけの成果が返ってくるので生活にも張りが出ます。記録を更新してもさらにあと1kg、あと1kgと常に目標を持って挑み続けられるのがこのスポーツの良いところです」。

休日はウインドウショッピングや映画鑑賞など、ごく普通に過ごしているとか。「小田原に引っ越してきて、まず桜の花の美しさに感激しまし

た。海岸で波の音を聞くのも好きです。人も温かいし、これからも小田原に住みたいです」。

実は30代40代の選手が一番活躍しているという「大人のスポーツ」のパワーリフティング。快適な小田原での暮らしを原動力に、これからも原さんの笑顔が表彰台の上を賑わしてくれそう。



スクワットで日本記録142.5kgを樹立した瞬間(平成13年8月 秋田ワールドゲームズ)

なりました。大切な一日と認識した一日と



ごろの訓練の大切さを再認識した一日と

また小田原アリーナでは、自衛隊や警察のヘリなども出動し、ビル火災で逃げ遅れた人を建物からヘリでつり上げる訓練では、みな固唾をのんで見守るなど、災害の恐ろしさと、日

「防災の日」の9月1日(日)に、市内で震度6強の県西部地震を想定した防災訓練が行われました。小田原では15年ぶりとなる県と市の合同総合防災訓練に、総勢4,300人が参加し、街中では実戦さながらの訓練を繰り広げました。

JRや小田急など5社が乗り入れている小田原駅では、運行している電車を使った初の訓練が行われ、小田原漁港では道路網が寸断したことを想定した海上輸送訓練も行うなど、近年にない大規模なものでした。



災害からまちを守れ！
県市合同総合防災訓練実施中

小田原
彩時記

心におみやげ、
見つけて小田原。

秋

楽しんで、

記録的に暑かった夏が過ぎて、
いつのまにか心地良い秋になりました。
花と緑に囲まれてのんびり1日過ごしたり、
イベント感覚で健康チェックしたり…
おだわらの秋を楽しみましょう。

グリーンフェスタ21



花と緑を身近に感じ、みんなで楽しめるイベントです。
● 小田原フラワーガーデン ☎ 342814
 緑のフリーマーケット 家庭にある植木・花・球根などを販売。
 ウォークラリー 園内で花巡り。チェックポイントごとに、新しい感動があなたを待っています。
 花や緑の即売会 花鉢・植木・苗木・盆栽・山野草・園芸資材・農産物のマーケット。
 その他 北條太鼓、おさるぼりん、ミニSL、剪定講習会、花の写真展示、園芸相談、押し花アートの展示・体験教室など。



日時 10月12日(土)～13日(日) 10:00～16:00
場所 小田原フラワーガーデン (小雨決行)

ふれあいけんこうフェスティバル

～いきいき小田原みんべえウィーク2002～

健康づくりには、まず自分の体について知ることが大事です。血圧・体脂肪・足型判定など健康チェックをしてみませんか。
 また、陶芸・書道・鎌倉彫・藤工芸・水墨画などの作品展示や、コーラス・大型紙芝居・大正琴などの発表会のほか、障子張り替え、盆栽手入れや刃物研ぎなどの実演会や日替わりのイベントも盛りだくさんです。
● 高齢介護課 ☎ 331841
健康づくり課 ☎ 470820
19日(土) お茶会、アンパンマンショー、生活体力測定、アロマテラピー体験コーナーなど
20日(日) 在宅介護支援センター講演会(レポーター村上允俊さん)(事前申込)、健康・歯・薬の相談コーナー、簡易骨密度測定、「三世代交流」のペーパークラフトや竹とんぼ作り、短歌大会など
 ※募集イベントについては、広報おだわらいふ9月15日号をご覧ください。



期間 10月19日(土)～20日(日)
 10:00～16:00
場所 いそしぎ・保健センター

